

タウモともよび、永正十年より十一年まで流行せしなるべし、

〔東海道名所記〕^六かゝる者の果は、上下共によろしからず、親にかゝりは勘當せられ、後には盗人になり、主にかゝりは、おやかたをたをし、他國に走りて請人に迷わくさせ、唐瘡をかきいだして、これをふせがんとて、輕粉大風子など、あらかなき藥をのみて、瘡毒うちに責ては筋ちぎれ、骨くじけて、いごう引つり、かなつんぼうになりつゝ、ながきうれひをまねぐもあり、これは、薄き人の傾城ぐるひの事也、

〔病名彙解^五〕楊梅瘡^{ヤウメイサウ} 俗ニ云トウガサ也、又黄豆ノ如クナル故ニマメガサトモ云リ、天行濕毒ニ感ジテ生ジ、又色慾過度シテ毒氣ヲ腎肝ノ二經ニ畜ヘテ、便毒トナリ下疳トナリ、後ニ此ノ瘡ヲ生ズルモアリ、又瘡ヲ生ジテ餘毒下疳トナルモアリ、尤モ遊女ヨリ傳染スルコト多シ、淫穢ノ氣遊女ノ陰戸ニ畜テアルトキニ交レバ、直ニ男子ノ腎中ニ感ジテ煩也、遊女ハ經水ニ其畜タル淫穢ノ氣ヲ通ズル故ニ、多クハ病ザル也、此瘡ノ狀ガ楊梅子ノ如クナルニ因テ名ケリ、或ハ縣花ノ如クナル故ニ縣花瘡ト名ケ、或ハ黄豆ノ如クナル故ニ黄豆瘡ト名ケ、或ハ魚疱ノ如ナル故ニ天疱瘡ト名ケ、瘡肉ガ外ヘ鬚リ出ル故ニ鬚花瘡ト名ケ、豆ノ如クニシテ面ニ生ズルヲ大風痘ト云、〔牛山活套^下〕楊梅瘡

楊梅ハ、モト下疳瘡ヲ傳染シタル人、之ヲ恥テ、治スルコト遲滯シテ、一變シテ便毒トナリ、便毒一變シテ楊梅瘡トナル、京都、江戸、大坂等ノ都會ノ所ニ多キ煩也、鄙野ノ地ニハアルコト少シ、京ニテハ濕氣ト云也、何レモ娼妓ニ交媾シテ傳染スルノ病也、初發ニハ、荊防敗毒散、消風敗毒散^{回春本條}二十四味風流飲^上ニ加減シテ用ベシ、

楊梅瘡經日不愈者ハ、或ハ鼻爛レ、鼻柱朽落シ、口臭ク、唇缺ケ、或ハ腕ノ拆目膈中ニアツマリ、毒氣膿ヲナシ、或ハ惣體ノ瘡乾テ惣身疼痛シ、或ハ骨ウヅキニナリ、或ハ眼ニ毒入り、或ハ耳聾シ、種々